



友の古い屋号)が銅の採掘を開始しました。海抜1,291mの地帯から斜めに深く長く帯状に貫入した鉱床は珍しく、世界でも稀に見る大鉱床でした。江戸・明治・大正・昭和の4時代、283年間にわたる長い間、終始一企業

四国山地と瀬戸内海には生まれた新居浜は、昔は小さな農漁村でした。その村が、四国屈指の工業都市へと発展を遂げました。かつて、世界一の産銅量を誇った別子銅山の歴史は、阿波生まれの鉱夫、切り上り長兵衛が、元禄3年(1690)、銅山峰(1,291m)の南側に露頭を見つけたことに始まります。翌年の元禄4年(1691)、幕府の許しを受けて大阪の泉屋(住



体験ゾーンの一部「遊学パーク」

様に感動とやすらぎを提供し地域の活性化に貢献する」であり、この経営理念実現のため、次の「基本方針」を掲げ取り組んでおります。

1. 先人の英知と努力を学び伝承し産業遺産を保存継承する。
2. 地域の観光拠点としての施設づくりに努めこれを管理運営する。

「別子銅山のテーマパーク」です。昭和48年(1973)に閉山となった別子銅山の貴重な産業遺産を活かして作られた

マイントピア別子は、平成3年(1991)6月5日にオープンしました。

### マイントピア別子の役割

(住友)によって採掘された鉱山は世界にも例がなく、別子山から四阪島までいたるところで今もなお近代産業遺産が残っており、その発展の歴史を学ぶことができます。



鉱山鉄道

### 官民一体となった「まちづくり」

3. 多くの人々が自然に親しみ交流すること  
が出来る憩いの場を創造する。

以上の方針のもと、マイントピア別子の役割として、「観光拠点」として情報の発信や市内観光施設間の連携強化を図るためリーダーシップを発揮し活動しております。

最近、マイントピア別子東平<sup>とうへい</sup>ゾーンの注目度が上り、別子銅山の観光客が増加しております。このきっかけは地元のホテルとマイントピア別子が共同で商品開発を行い、旅行会社に売り込んだのが始まりでした。バックツアーを大手旅行会社が企画し募集したところ大人気コースとなり話題となりました。ただ、これは突然のことではなく、行政はもとより市民・団体・企業など多くの関係者の長い期間をかけての取り組みや努力によって、開花したものであります。

赤字経営が多いといわれる第3セクター

### 新居浜と別子銅山の歴史

# 産業遺産との調和



マイントピア別子  
専務取締役  
**船越 豪晴**  
(愛媛県新居浜市立川町)

**特集**  
**道の駅**

新居浜ふるさと観光大使、水樹奈々さんと  
マイントピアキャラクター 銅太くと花ちゃん

愛南町とのコラボ



介や「別子銅山近代産業遺産88ヶ所、ふれあいめぐりあい」のガイドブックを作成したり、観光甲子園で「別子銅山の観光」を取り上げ見事準優勝に輝いております。また、新居浜商工会議所でも「とっておきの新居浜検定」を企画し、合格者の方々へボランティアガイドを呼びかけガイドの養成を行っております。

にあつて、奮闘を続けている「マイントピア別子」を市民が支えようと生まれたボランティア組織に「マイントピアを楽しく育てる会」があります。この組織は平成11年7月に設立され、ボランティアガイド部を中心に活動してもらっております。別子銅山の産業観光に來られた方々に、

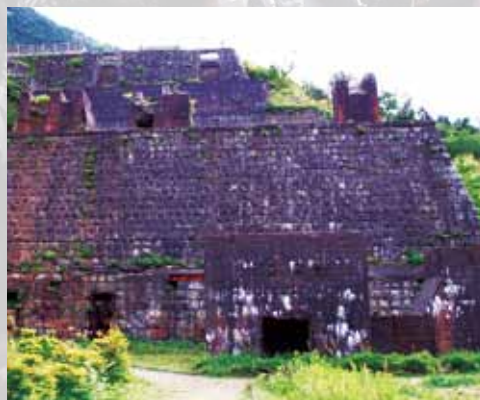
きめの細かいガイドをして頂いて訪れた方々に感動と満足感を提供しております。  
また、地元の高校生や生徒さんにも自発的にいろいろな面で協力して頂いております。新居浜南高校の情報科学部の生徒さんたちはホームページで別子銅山の紹

また、東予地区の産業観光施設（日本食研（株）・タオル美術館・四国コカ・コーラボトリング（株）・アサヒビール（株）四国工場・（株）マイントピア別子）5社が9年前に「えひめ東予産業観光施設連絡会」を発足させ、情報交換・共同営業活動・パンフレットの共同作成等を行い、東予地域の産業観光活性化に取り組んでおります。  
四国中央市と新居浜市は共同で「別子・翠波はな街道」をPRするため、NS推進協議会を発足させ活動しております。

イベントでも、コラボレーションを行っております。今年の5月で4回目となりましたが、マイントピア別子の「芍薬」が咲く頃に愛南町と「四国一の今が旬」と銘打ってイベントを行っております。西日本最大級のマイントピアの「芍薬」、四国一の水揚げ量を誇る愛南町の「カツオ」とのコラボは大変人気があり、毎年お客様が増加しております。  
マイントピア別子は、「産業遺産」と「花観光」で集客の増加を



15,000本の芍薬



東平産業遺産（貯鉱庫）

上っております。今後は従来にまして、「攻めの営業活動」として、セールス活動・PR活動の強化を図ること、来て頂いたお客様に「満足してもらえぬ営業」として、きめの細かいサービス・魅力ある施設づくりを行い、「近代産業遺産のまち」新居浜市として、全国に通用する観光地の評価をいただけるよう、官民一体となった取り組みができるよう「観光拠点」としての役割を果たして行く決意です。

図っております。  
自然の中に残る「産業遺産」、自然の中で美しく咲く「花はお互いが調和して、来る方々の心を癒し「感動とやすらぎ」を提供しております。

**これからが本番**

「東洋のマチュピチュ」「天空の歴史遺産」として人気の「東平」（とうへい）ゾーン、4月3日にリニューアルオープンし、楽しく遊びながら学べる「遊学パーク」を新設した別子銅山観光ランドの「端出場」ゾーンは、昨年半ばより多くのお客様にきて頂いております。現在は西日本方面を中心に沢山のお客様にきて頂いておりますが、最近では関東方面でも話題に